

たるみ治療最前線

— 注入と機器を使用したコンビネーション治療の実際 —



司会 石川浩一 先生
クロスクリニック銀座院長



慶田朋子 先生
銀座ケイスキンクリニック院長



宮田成章 先生
みやた形成外科・皮ふクリニック院長

たるみはシミ、シワと並ぶ美容医療の主要な施術対象であり、これまで注入治療や機器による熱治療、外科的手術などで治療が行われてきた。たるみは皮膚の伸展、骨や筋肉、脂肪組織や支持靭帯などの萎縮により生じ、その関連する層の多様性から、従来の治療を組み合わせた「コンビネーション治療」の効果が注目されている。本座談会では、効果的なたるみのコンビネーション治療について、美容医療の最前線で活躍する先生方にディスカッションしていただいた。

増加傾向のたるみの患者数

石川 本日はたるみの「コンビネーション治療」をテーマにディスカッションをしたいと思います。まず最初に、たるみを主訴に受診される患者さんはどのくらいいらっしゃいますか。

宮田 当院ではたるみの診療が全体の約1/3を占めています。これは、レーザーや高周波(RF)などの機器を用いた治療を中心に据えながら、フィラーなどの注入治療にも積極的に取り組んでいるという当クリニックの特長を患者さんが認識してくださっているからではないかと思えます。また、機器の種類を充実させる

ほどたるみ治療を希望する患者さんの数が増えていると感じています。

慶田 2006年の開業当時はシミや肝斑がほとんどでした。現在は、たるみ治療のニーズに応えられる技術を身につけたことで、たるみを主訴とした患者さんが増えています。初診時に問診票の主訴の欄をチェックしてもらうと5割以上がたるみで、私が診療している患者さんに限ればたるみの患者さんは約7割を占めます。

石川 当院でも従来からたるみのご相談が多かったのですが、とくに最近は、より専門性を必要とするアンチエイジング治療のご要望が増えています。そのうち5割近くはたるみの改善を希望されます。地域やクリ

ニックの方針、設備などによって変わってくると思いますが、都心のクリニックでは、たるみを主訴として来院されるケースが増えているといえそうですね。

たるみの二大要因をターゲットにしたコンビネーション治療

石川 たるみの原因は、皮膚の伸展と、骨や筋肉、脂肪組織や支持靭帯などの萎縮によるボリュームロスによると考えられています。先生方は、たるみの原因を患者さんにどのように説明していますか。

宮田 患者さんには「年齢を重ねると、脂肪や筋肉の量が減少したり、骨密度が低くなったり、それらを支